

Pal

～仲間



2025
Fall Edition
Vol.127

2025年(令和7年)9月30日発行

- 「第20回にほんごで話そう!日本語スピーチ大会」を開催しました!1
日本語スピーチ大会 理事長賞受賞・市長特別賞受賞2
夏休み子ども教室を開催しました!、外国人ママの広場、大和市プレス쿨のご案内3
公益財団法人 大和市国際化協会からのお知らせ、2024年度の表彰者をご紹介します。4

発行 ■ 公益財団法人 大和市国際化協会
〒242-0018 大和市深見西1-3-17
市民活動拠点ペテルギウス北館1階
TEL 046-265-6051 FAX 046-265-6052
URL : <https://www.yamato-kokusai.or.jp>
Email : pal@yamato-kokusai.or.jp



「第20回にほんごで話そう!日本語スピーチ大会」を開催しました!

7月13日(日) 桜丘学習センターにて、「第20回にほんごで話そう!日本語スピーチ大会」が開催されました。今年は11カ国に繋がりのある15名の参加があり、発表者を応援する家族・友だちや同僚など、約130名もの方々が集まってくださいました。

待ち時間に何度も原稿をチェックしたり、緊張した表情で自分の順番を待つ参加者もいましたが、いざ始まってみるとしっかり準備してきた甲斐もあり、自信をもって発表する姿が印象的でした。また、審査発表前には発表者の一人タヌユシャ ネットユミカルナーナヤカさんにスリランカの伝統舞踊を披露していただきました。指先や目の細かな動きが美しく、ステージ全体を使った動きはとてもダイナミックで、会場は大いに盛り上がりしました。

参加者からは「最初は緊張したけど楽しかった!参加して良かった!」「自分の物語を語ることができ、幸せでした!」「今回の大会をきっかけに、もっと日本語を上手になりたいと思うようになりました!」といった声が聞かれました。

発表者の熱いメッセージは来場者の心にしっかり届いており、「発表者それぞれの思いが込められたスピーチを聞いて、力をもらいました。」「みなさんがそれぞれとても前向きにチャレンジを続けてきた成果がとてもよく伝わってきました。」「誰もがキラキラとしていました。私も私なりに頑張らなきゃと思いました。」といった感想が寄せられました。

スピーチ大会への参加は彼らにとって大きな挑戦だったと思います。母語ではない日本語を使って、そして大勢の人の前で自分の考えや気持ちなどを発表することは、とても勇気がいることです。参加してくれた彼らにとって、今回のスピーチ大会参加がよい思い出となり、そして今後の日本語学習への大きな自信となってくれば・・・と主催者一同心から願っています。

参加者全員のスピーチ
原稿は協会HPにアップ
していますので、是非
ご覧ください。



第20回 にほんごで話そう！日本語スピーチ大会

公益財団法人 大和市国際化協会
理事長賞受賞

『カラフルな世界』

座間総合高校3年 高橋 彩菜さん



みなさん、こんにちは。座間総合高校3年生の高橋彩菜です。

今日は、私の経験してきた様々な色の世界を皆様にお届けしたいと思います。

私はカナダのバンクーバーという街で、12歳まで育ちました。カナダは世界的に多くの移民を受け入れ、多様な文化を持つ国です。

まず、そんなカナダのカラフルなイベントを紹介합니다。

カナダは、性的マイノリティ、LGBTQ+の人たちの人権が守られている国です。私の住んでいたダウントウンにも、LGBTQの人たちがたくさん住んでいました。毎年夏頃に、多様性を祝うプライドパレードというイベントが開催されます。LGBTQのシンボルカラーであるレインボーカラーの旗を掲げ、みんなカラフルな服を着てストリートを踊って歩きます。私はこのパレードを毎年楽しみにしていて、誰もが自由に自分らしく生きることの大切さをダウントウンの街から学びました。

次はピンクです。カナダにはピンクシャツデーというのがあります。この日は、生徒も先生も保護者もみんなでピンクのシャツを着て登校します。これは2007年にカナダの学校で、ピンクのシャツを着て登校した男の子がいじめられたことがきっかけで始まりました。それを見た2人の男子生徒が、「何か僕たちにできることはないか」と、インターネットに投稿し、次の日、みんなでピンク色のシャツを着て学校に集まりました。そしてその日が、「いじめをなくそう。男の子だから、女の子だからという決まりはないのだ」ということを学ぶ日になりました。

それから、オレンジシャツデー。カナダには多くの先住民が住んでいます。先住民の子どもは自分たちの伝統から引き離され、160年以上も寄宿学校に通わされていました。ある日、一人の女性が、おばあさんからもらったオレンジのシャツを着て学校に行きましたが、学校に取られてしまいました。彼女にとってオレンジ色は、その出来事を思い出す悲しい色になりました。オレンジシャツデーでは、“Every Child Matters”「すべての

子どもが大切」をモットーに、先住民でない私たちもオレンジシャツを着て、彼らの辛い経験を学びます。

私が住んでいたダウントウンの学校には色々な人がいました。養父母に育てられている子、トランスジェンダーの子、カナダと繋がりのない国から来た子もいます。人種、宗教、性別、文化、家庭の事情。皆それぞれ違っていても、お互いをリスペクトする気持ちが大切だという考え方が、子どもの頃から自然に身についたと思います。

2020年に日本に来てから、私は、今までカラフルだった世界が少し減ったように感じました。カナダにいた時は、違うのが当たり前だったのに、日本では、みんな同じことをすることが当たり前でした。私は見た目も、性格も、周りから浮いている感じがして、戸惑いました。最初は、「なぜみんなと同じ行動をしなければならないのだろう」と思ったこともありましたが、でも、日本の中学校で体験した体育祭や合唱コンクールの行事を通して、みんなが一つのことを一緒に頑張るすばらしさを味わうことが出来ました。一致団結することでみんなが一つの色へと染まっていくことが、日本の良さなのだと思います。

座間総合高校に入学してからは、様々な国につながる友だちに出会いました。日本という異文化の中で同じような経験をした仲間がいるから、気持ちが共有できるし、日本語に自信がなくても、人の目を気にすることなく、安心して自分のカラーを、発揮できるようになりました。私は思います。

一つの色に見える社会も、実は何種類もの色が混ざっているのです。例えば、ピンクを作るのに赤と白がいるし、緑を作るためには、青色と黄色が必要です。世の中は、いろいろな色が複雑に混ざり合っていてできているのです。私は、「違う」ことが当たり前なこととして、みんなが思えるようになればいいと思います。コミュニケーションは言葉だけではなく、人と人の中には、人間にしか作れない空間があって、誰かと協力したり、体で表現することで、気持ちが通じ合い、目に見えない絆のようなものが生まれるのだと思います。人間は、一人一人違っていいのが当たり前。たくさんの方が集まって綺麗な虹になる。そんなカラフルで平和な世界になったらいいなと思います。

大和市長 特別賞受賞

『日本での縁』

桜美林大学 ホアン ティ ミン タムさん



みなさん、こんにちは。

2023年4月朝日新聞奨学生として日本に来たタムと申します。二年間色々なことを体験し、経験を重ね、私は性格が積極的になり、成長することができました。今日はこの二年間で得た、日本での縁について、いくつか皆さんに紹介させていただきたいと思います。

まず、一つ目は夜中道端で寝ていた人についてです。外国人の皆さん、見たことがありますか。日本に来たばかりのころ、私は明け方の2時頃、新聞を配りながら歌を歌っていると道端で誰かが寝ている姿に気づきました。「え、なんで道で寝ているの。もしかしたら、死んでいたらどうしよう」と考えました。起こしてみようとした私はふと先輩のアドバイスを思い出しました。「日本に住むなら自分に関係ないことに関わらないで、迷惑かけるからね」というものでした。すごく迷いましたが私は助けることに決めました。人の命なので無視するのは絶対ダメです。そして、おじいさんを起こして大丈夫ですかと声をかけたら「俺は大丈夫です。ありがとう。」と言って、よろよろ帰っていきました。どうして家で寝ないのかという疑問を私はずっと持っています。「日本は働きすぎの国」という話を聞いていましたが、来日してから自分の肌で実感することになりました。もちろん、家族や自分のためなど頑張らなければいけないということは、理解できますが、休まず命をかけて働く必要はないと思います。日本ではこのようなことは珍しくないそうです。これが初めての私の体験です。ベトナムでは知ることのできなかった本当の日本の姿を見ることが出来たと感じました。

二つ目は近所のお婆さんと親しくなったことについてです。日本に来る前に日本人が冷たい、他人と接するのが好きではないという話を聞いたことがあります。しかし、近所のお婆さんに話しかけてみたら親切で優しい顔つきをしてもらいとても嬉しかったです。それから、毎日かわいいお婆さんと一緒に新聞を読み、雑談し、ご飯を食べています。いつの間にか知らず知らずのうちに私たちは距離が縮まり、親子のようになりました。神奈川県にいつまで住めるかわかりませんが、出来るだけ一人で住んでいるお婆さんを手伝ってあげたいです。ですので、冷たいと言っても色々な人がいるので気軽に話しかけてみたらどうですか。

三つ目は人との縁についてです。私の学校の先生は皆優しく熱心に、日本語を教えてくださいました。ミャンマー人、ネパール人やさまざまな地域から来たベトナム人も一緒に勉強し、生活し、山のような試験を乗り越えながら過ごすことができ、本当に嬉しかったです。そして、日本語学校で二人目のお母さんを見つけました。その先生はベトナムの伝統的な服に興味があり、ベトナムの文化や日本の文化をたくさん話して体験しました。私たちは卒業した今でも一緒に遊んだり食事をしたりしています。ときには困っている私にいいアドバイスをもらうことができ、一人暮らしの私はすごく感動しました。本当にありがたいです。いつか先生と一緒にベトナムへ行くと約束したので頑張って勉強したりお金を稼いだりしたいと思います。

皆さん、「一期一会」という日本語のことわざを知っていますか。一生に一度きりの出会いを大切にすることです。日本にはいつまで住むかわかりませんが出来るだけ皆と一緒にたくさんいい思い出を作ろうと思います。私たちは、今まさに青春を過ごしているのだと思います。

以上です。ご清聴ありがとうございます。

夏休み子ども教室を開催しました！



ベテルギウス北館



IKOZA

今年度もベテルギウス北館(国際化協会)とIKOZA(渋谷学習センター)で、62名ものボランティアの皆さんにご協力いただき、「夏休み子ども教室」を開催しました。延べ152名の小・中学生が参加し、朝から会場は大にぎわい。基本1対1で、子どもたちの理解度にあわせて夏休みの宿題をサポートしました。

また、勉強後のお楽しみとして、日本語の絵本や紙芝居の読み聞かせの時間を設け、昼食提供を行いました。

参加した子どもたちからは「夏休みの宿題が早く終わってよかった!」「みんなと一緒に食べたカレーがおいしかった!」といった声が寄せられ、夏休みのいい思い出になったようです。

★

毎週火曜日「ほうかごきょうしつ」開催中

大和市国際化協会では毎週火曜日午後4時30分から外国につながる子どもたち(小学生～高校生)を対象に「ほうかごきょうしつ」を開催しています。机に向かって問題を解くだけでなく、カードゲームを使って日本語を学んだり、外国にルーツを持つほかの子どもたちとの交流の場を提供するなど、毎週ボランティアの皆さんと工夫しながら実施しています。「ほうかごきょうしつ」は多くの子どもたちの「習慣」になりつつあり、「来週の「ほうかごきょうしつ」は祝日だから、お休みだよ!」と伝えても、来てしまう子どもも…これからも彼らの学習スピードやニーズに合わせてサポートしていきます。

★

「ほうかごきょうしつ」のコーディネーター募集

協会では毎週火曜日午後4時30分から6時30分まで、市民活動拠点ベテルギウス北館にて、外国につながる子どもたち(小学生～高校生)を対象とした「ほうかごきょうしつ」を開催しています。現在、協会スタッフと一緒に運営して下さるコーディネーター(協会規則に基づき、交通費支給)を募集しています。質問・ご興味のある方は、協会までお問い合わせください。

○コーディネーターの役割(例)

- 子どもとボランティア(教える人)のマッチング
- ボランティア(教える人)との情報共有
- 子どもたちの日本語レベルに沿った教材選び
- 進級・卒業祝い、クリスマスパーティーなど催しものの企画・開催サポートなど

身近にいる外国につながるママにも共有してください！

毎月第4水曜日は「外国人ママの広場」！

毎月第4水曜日、外国につながるママ・子どもが集まる場「外国人ママの広場」を開催しています。「保育園に入れるには、どうすればいい?」「子どもの発達について相談したいけど、どこに行けばいい?」「ママ友が欲しい!」など、疑問や悩みをざっくばらんに話し情報交換する場です(事前予約不要)。

皆さんの周りに外国につながるママがいれば、ぜひ「外国人ママの広場」をご紹介します。子連れ参加もちろん大歓迎です。



○場 所：市民活動拠点ベテルギウス北館 国際交流サロン

○持ち物：ランチ・飲み物

今後の予定

2025年度

10月22日	11月26日	12月24日
1月28日	2月25日	3月25日

身近にいる外国につながる子どもたちのご家族にご案内してください！

大和市プレスクールのご案内

2026年4月に大和市の小学校に入学する子どもたちのために、大和市プレスクールを開催します(主催:大和市教育委員会)。この教室では、「ひらがな・数字の読み書き」や「学校生活のルール」などを学び、スムーズに小学校生活をスタートするための準備を支援します。また、保護者向けに、準備/購入すべき学校備品などや、日本の学校生活全般に関する説明も行います。



生涯学習センター会議室(シリウス6階) ※計18回 午後2時30分から4時30分

12月～3月 毎週水曜日と隔週木曜日(祝日・年末年始は除く)

渋谷学習センター会議室(IKOZA3階) ※計18回 午後2時30分から4時30分

12月～3月 毎週金曜日と隔週木曜日(祝日・年末年始は除く)

○費用：1,800円

○対象：2026年4月に大和市内の小学校へ入学する大和市内の子ども

○申し込み方法：国際化協会の窓口、電話またはEmailでお申し込みください。

※両会場に申し込みいただくことも可能です。

公益財団法人 大和市国際化協会からのお知らせ

9:00~16:00
ベトナム語10:00~13:00
タガログ語10:00~13:00
中国語9:00~17:00
スペイン語

10月

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	31	

にほんごをはじめよう
第3期
9/2~10/28外国人ママの
広場

11月

						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30						

ピックアップ!
防災フェスタにほんごをはじめよう
第4期
11/4~12/23外国人ママの
広場

12月

		2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30	31			

ピックアップ!
ハッピーフェスタ

世界とつながろう

外国人ママの
広場Pal
Vol.128
発行

土曜開庁日 【毎週火曜日】 にほんごをはじめよう(午前10時より)
ほうかごきょうしつ(午後4時30分より)

ピックアップ!

- ①開催日時 ②開催場所 ③費用 ④内容
⑤講師 ⑥対象 ⑦定員

防災フェスタ 参加ボランティア募集

- ①11月1日(土)10時~13時
②引地台公園 ④やさしい
日本語を使って外国人市民
と一緒にブースをまわる
⑥どなたでも



ハッピーフェスタ 運営ボランティア募集

- ①12月7日(日)10時~13時
(予定) ②市民活動拠点ベ
テルギウス北館(国際化協
会) ④国旗当てクイズの
実施 ⑥どなたでも



日本語ボランティア養成講座参加者募集

ボランティアとして外国人に日本語を教えたいとお考えの皆さんを対象に開催します。学習者の背景や多文化共生の考え方、日本語ボランティアの役割、教える上で知っておきたい日本語の特徴などを学びます。

日時：2026年 1月16日~3月6日(全8回) 毎週金曜日
午後2時から4時

対象：講座修了後国際化協会の登録ボランティアまたは市内日本語サークルのボランティアとして活動できる方

定員：20名

場所：市民活動拠点ベテルギウス北館

現在まで開催日時および回数は予定です。

詳細は、10月15日に右記のQRコードからお知らせします。ご確認の上、お申込みください。



2024年度の表彰者をご紹介します。

長年の貢献に心から感謝申し上げます。

国際化協会では、国際化協会の発展に功労のあった方や地域の国際化推進に貢献のあった方を年に一度表彰し、その功績を称えています。

●功勞表彰

理事長として協会発展のために寄与した功績が顕著である方

杉間泰則さん



●一般表彰

多年にわたり協会の発展及び地域の国際化の推進のため多大な金品などを寄付された方

(株)永屋



■公益財団法人大和市国際化協会

〒242-0018

神奈川県大和市深見西1-3-17

市民活動拠点ベテルギウス北館1階

Tel: 046-265-6051

Fax: 046-265-6052

Email: pal@yamato-kokusai.or.jp

https://www.yamato-kokusai.or.jp

受付時間 月・水・金 第1、3土曜日

8:30~17:00

火・木 8:30~20:15

